

平成25年度事業計画書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

I. 事業計画概要

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金として1年が経過しました。本年も、美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進と我が国文化の発展に寄与する、という目的に則り、より積極的に、より魅力的な事業を実施します。

II. 事業毎の計画

1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

(1) 石洞美術館

a. 展示計画

石洞美術館の展覧会は、原則として館蔵品の展示を行っていますが、本年は、館蔵品の展覧会として、漆器の展覧会と仏教美術の展覧会を開催します。

漆器には朱漆や黒漆など単色の漆を施したものや、その上に蒔絵による装飾を加えたものなど様々あります。当館の所蔵品は黒漆の上に朱漆を塗った、いわゆる根来塗と、^{いろ}彩漆を用いて文様を描いた漆絵が主体です。漆器といえば華やかな蒔絵がよく知られていますが、長年の使用に耐えうる堅牢な塗りの魅力を、この機会に是非多くの方に知って頂きたいと思えます。

当館所蔵の仏教美術はガンダーラのもものが纏まっており、他に中国、朝鮮、日本のものがあります。ガンダーラの作品で仏伝を示し、その他の作品で、それぞれの地域の仏教美術の特徴について知って頂きたいと思えます。

また、2回目になりますが、マイセン磁器を借用して展覧会を開催します。今回の展覧会には、日本の柿右衛門様式の肥前磁器の影響を受けたマイセン作品もお借りし、東西間の国際交流にもスポットを当てたいと思えます。

「土屋コレクション マイセン展」	4月1日～4月7日
「館蔵漆器展 一根来と漆絵」	4月27日～8月4日
「土屋コレクション マイセン展 Part II」	9月7日～12月15日
「館蔵仏教美術展」	1月11日～4月6日
「第30回淡水翁賞受賞作品展示」	3月後半～4月6日

b. 広報活動

昨年度に引き続き「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

c. 資料の収集

魅力有る展示を行っていくため、資料収集方針にしたがって、今年度も新たな資料の収集を行います。

2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

(1) 助成事業

本年度は下記の研究に対し助成を行います。

a. ハーバード大学東アジア文化部の留学生に対する助成

b. ジラルデッリ青木美由紀　オリエントの東：トルコ共和国国立宮殿局所蔵の日本美術工芸品コレクションの悉皆調査

c. 生田ゆき　アメリカにおける「型紙」研究の調査②

(2) 奨学金

本年度は下記の留学生に奨学金を支給します。

Bernarda Antony (インドネシア)　杉野服飾大学

(3) 淡水翁賞（若手金作家奨励賞）

若手金作家奨励のための淡水翁賞は、今年度で30回目を迎えます。

第30回淡水翁賞の募集は9月頃開始、12月25日をもって締め切りとし、選考の上、3月に授賞式を行います。